

第5章

温室効果ガスの

将来推計と削減目標

1 温室効果ガス排出量の将来推計

本市の温室効果ガス排出量について、本計画の目標年度である平成 42（2030）年度の将来推計を行いました。

推計にあたっては、排出量に大きく影響を及ぼす可能性のある、人口減少、電力の排出係数の低減、再生可能エネルギーの導入進展、エネルギー使用量の減少の、4 要素を考慮しています。

表 5-1 排出量に大きく影響を及ぼす可能性のある 4 要素

要素 1	人口減少 地球温暖化対策は人為起源の温室効果ガス排出量を減少させようとする趣旨であることを踏まえ、人口減少を考慮 人口減少対策を講じた場合でも、平成 42（2030）年度に約 3%人口が減少すると推定（「たかまつ人口ビジョン」及び「高松市総合計画」）
要素 2	電力の排出係数の低減 「長期エネルギー需給見通し」（経済産業省）で示されたエネルギーミックスから算出された平成 42（2030）年度の目標値を考慮 平成 42（2030）年度の排出係数：0.37kg-CO ₂ /kWh （「電気事業における低炭素社会実行計画」（電気事業連合会等））
要素 3	再生可能エネルギーの導入進展 平成 42（2030）年度に予想される電源構成：再エネ 22～24%を考慮 （「長期エネルギー需給見通し」（経済産業省））
要素 4	エネルギー使用量の減少 平成 42（2030）年度のエネルギー需要：省エネ対策前比約 13%減を考慮 （「長期エネルギー需給見通し」（経済産業省））



本市の温室効果ガス排出量は、平成 42（2030）年度に約 2,575 千 t-CO₂になると推計され、本計画において基準年とする平成 25（2013）年度の約 3,544 千 t-CO₂と比べて約 27%減少すると見込まれます。

表 5-2 高松市の温室効果ガス排出量の将来推計

項 目		温室効果ガス 排出量 (千 t-CO ₂)	削減率
基準年（平成 25（2013）年度）排出量		3,544	—
削減量	人口減少関係	▲137	約-4%
	長期エネルギー需給見通し関係	▲832	約-23%
平成 42（2030）年度 排出量推計		2,575	約-27%

2 削減目標

温室効果ガス排出量の将来推計を踏まえ、平成 42（2030）年度に、平成 25（2013）年度比で 30%減の水準にすることを目標とします。

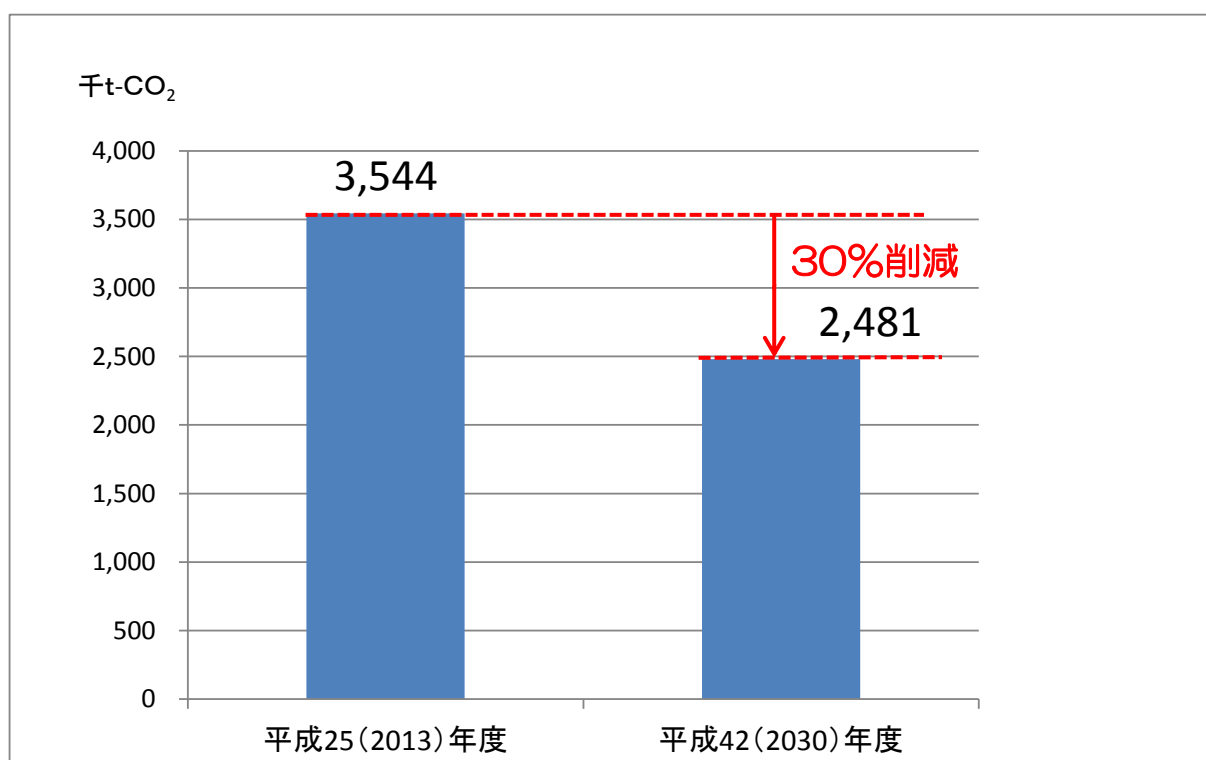
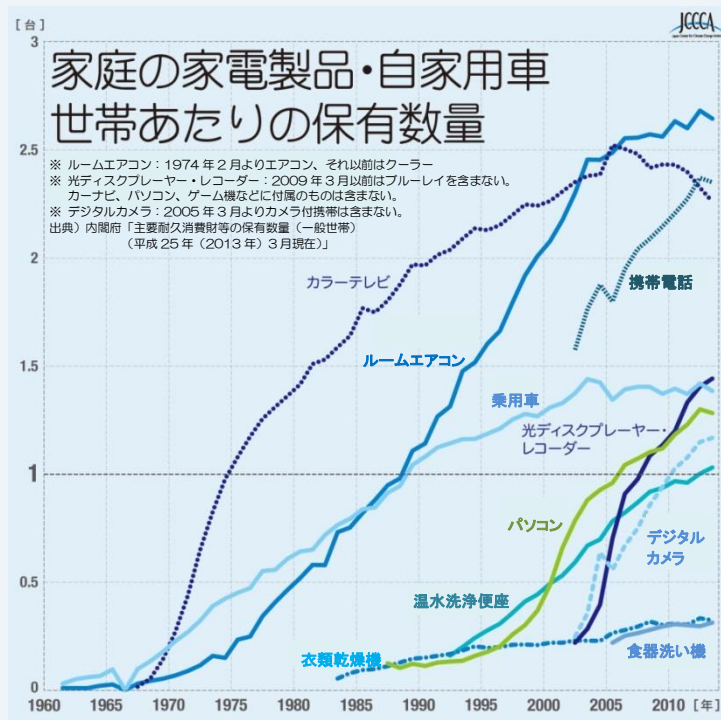


図 5-1 高松市の温室効果ガス排出量の目標

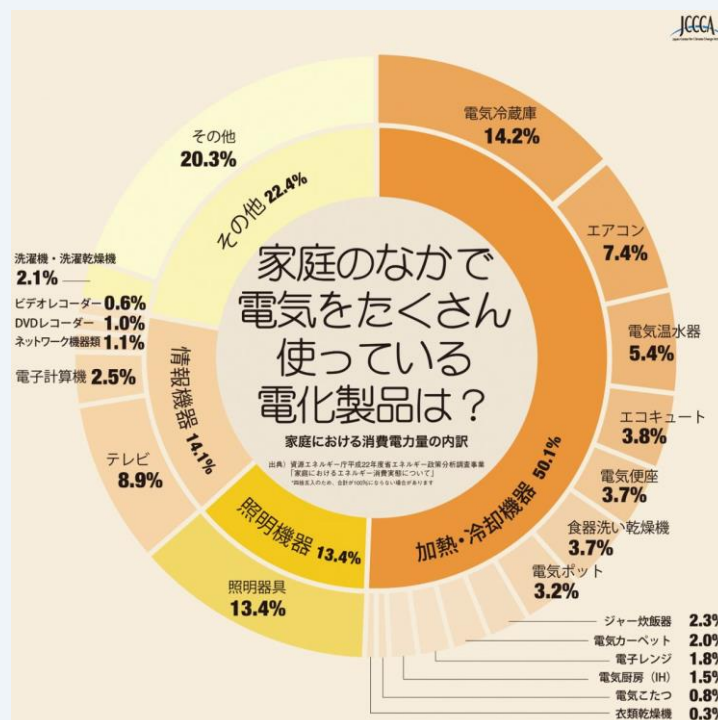
＜豆知識＞ 家庭における家電製品等の保有数量は？電気をたくさん使う製品は？

家庭において、カラーテレビ、ルームエアコン、乗用車は、1960年代からほぼ一貫して保有数量が増加しており、80年代以後はパソコンなどの新たな製品が加わり、数量が伸びています。

電気をたくさん使う製品では、常時作動させる電気冷蔵庫を筆頭に、照明器具、テレビと続きます。



出典：内閣府「主要耐久消費財等の保有数量（一般世帯）」
 全国地球温暖化防止活動推進センターHP (<http://www.jccca.org/>) より



出典：資源エネルギー庁平成22年度省エネルギー政策分析調査事業「家庭におけるエネルギー消費実態について」
 全国地球温暖化防止活動推進センターweb サイト (<http://www.jccca.org/>) より